国立国語研究所学術情報リポジトリ

国語研の窓 第28号 (2006年7月1日発行)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00001933

国語研の窓 28号

平成18年７月１日　第28号　発行　独立行政法人国立国語研究所
Independent Administrative Institution: The National Institute for Japanese Language

編集　国立国語研究所管理部総務課
普及広報担当グループ
〒190-8561 東京都立川市緑町3591-2
電話 042-540-4300　FAX 042-540-4334
URL http://www.kokken.go.jp/

明るく開放感のある１階ホール

もくじ

暮らしに生きることば　1
「第２期中期目標・中期計画」がスタート　2
刊行物紹介：
　『分かりやすく伝える 外来語言い換え手引き』　4
　『日本語教育の新たな文脈』　5
『日本語ブックレット2004』紹介　6
第13回国際シンポジウム報告　6
ことばＱ＆Ａ　7
新刊　8

暮らしに生きることば

医学・医療の専門用語

病院の掲示に「インフォームドコンセント」や「セカンドオピニオン」などの外来語を目にします。人間ドックの問診表には「MRI」「CT」などの略語や「喀痰（かくたん）細胞診」などの漢語が使われています。あなたは，ここにあげた五つの専門用語の内，説明や言い換えが添えてなくても分かる言葉がいくつありますか？

医学・医療用語には，患者・家族にとって分かりにくい外来語，略語，漢語の専門用語がたくさんあります。中には，説明しようとすると，さらに難解な専門用語を使って人間の身体の仕組みから説明しなくてはならない言葉や，一般の人になじみのある語彙（い）を使って言い換えると，誤解を生じてしまう言葉も少なくありません。

国立国語研究所の世論調査では国民の約６割が，冒頭にあげたような医学・医療の専門用語の分かりやすい説明や言い換えを望んでいます。そのような期待に応え，専門家と非専門家の橋渡しをつとめようと，国立国語研究所では，難解な専門用語の分かりやすい説明や言い換えを提案しています。また，医師の皆さんと協力して，「医療コミュニケーションの適切化」という研究課題に取り組んでいます。この課題では，多くの医師・歯科医師の皆さんの協力を得て，調査を実施し，討論会を開きました。

調査に回答した医師の９割近くが，「セカンドオピニオン」や「CT」などの専門用語を患者に理解してもらいたいと考えています。また，難解な医学用語を使わなければならないとき，「手書きのメモや図解を活用する」（93.7%），「詳しく補足説明する」（61.7%）などの工夫をしています。

討論会では，「セカンドオピニオン＝ほかの医師の意見を聞いて，どんな診療を受けるか考える参考にすること」「ウイルス＝薬ではなかなか退治できないばい菌」「抗生剤＝細菌を退治する薬」などの分かりやすい説明も検討しました。

医療の分野に限らず，専門家と非専門家のコミュニケーションの適切化は現代社会のさしせまった課題です。この課題に貢献する調査研究を今後も続けていきます。　（吉岡　泰夫）

「第２期中期目標・中期計画」がスタート

１．中期目標・中期計画とは

平成18年４月から，国立国語研究所は独立行政法人として「第２期中期目標・中期計画」の期間に入りました。平成13年４月に独立行政法人となったとき，第１期の中期目標・中期計画の期間は，平成18年３月までの５年間と定められました。その第１期５年間が終了し，新たに第２期が同じく５年間の予定でスタートしたわけです。

独立行政法人は，所轄する大臣から示された中期目標に沿って自ら中期計画を立て，大臣の認可を受けたうえで事業を行うことになっています。国立国語研究所の場合は，文部科学大臣から示された中期目標を受けて，それを達成するのにふさわしい具体的な中期計画を練り上げ，大臣の認可を受けてから実行に移していくといった手順になります。

２．事業の根本的な見直し

独立行政法人の事業は，必要だからという理由で何でもやれるわけではありません。必要であると同時に，それが本当に国として実施しなければならない事業であるかどうかが問われます。「民間でやれるものは民間へ」ということです。また，複数の機関が似たような仕事をしていないかどうかも厳しくチェックされます。「他の機関に任せるべきものは他の機関へ」ということです。

国立国語研究所についても，平成17年度末までに行われた国の機関や独立行政法人の全般に及ぶ組織・業務の見直しの動きの中で，このような組織・業務の原点に立ち返った根本的な見直しが行われました。第２期中期目標・中期計画は，その結果が十分に反映されたものになっています。

３．国立国語研究所の任務と中期目標

上に述べた根本的な見直しの過程で，国立国語研究所の任務が改めて確認されました。次ページの図の左側にあるように，その任務は，「『国民の言語生活の向上』と『外国人に対する日本語教育の充実』への貢献」ということです。そして，この任務を遂行するために何をすればよいのか，現実の日本社会に目を向けて検討した結果，四つの必要な事柄が浮かび上がってきました。この４点をふまえて設定されたのが中期目標というわけです。文部科学大臣から示された中期目標の骨子は，図の右側の４本の柱にまとめられます。

４．国立国語研究所の中期計画

国立国語研究所の中期計画は，中期目標の４本柱に対応して立てられています。中期計画の具体的な内容を紹介しましょう。

【１.国語の調査研究】

中期目標の「１.国語の記録・保存及び国語の実態把握と問題点・課題等の提示による国語政策への貢献」を達成するために，次の①②③を基幹的な調査研究として，また，④を喫緊の課題に対応する調査研究として実施します。

①大規模データベースの構築により国語の使用実態とその変化を効果的・効率的に把握する。

②国民の多様な言語行動・言語意識・言語能力に関する調査研究を行う。

③外来語言い換え提案など国民の言語生活の向上に資する提案を行う。

④敬語，漢字，国語力等に関する調査研究を行う。

【２.日本語教育情報の作成・提供】

中期目標の「２.日本語教育機関等に対する日本語教育の内容の質的向上を図るための指針となる情報の提供」を達成するために，次の⑤⑥⑦を実施します。

⑤「国内で使用されている日本語の最新の使用実態に関する情報」と「外国人が学習目標とすべき日本語に関する情報」を集積した日本語教育データベースを構築する。

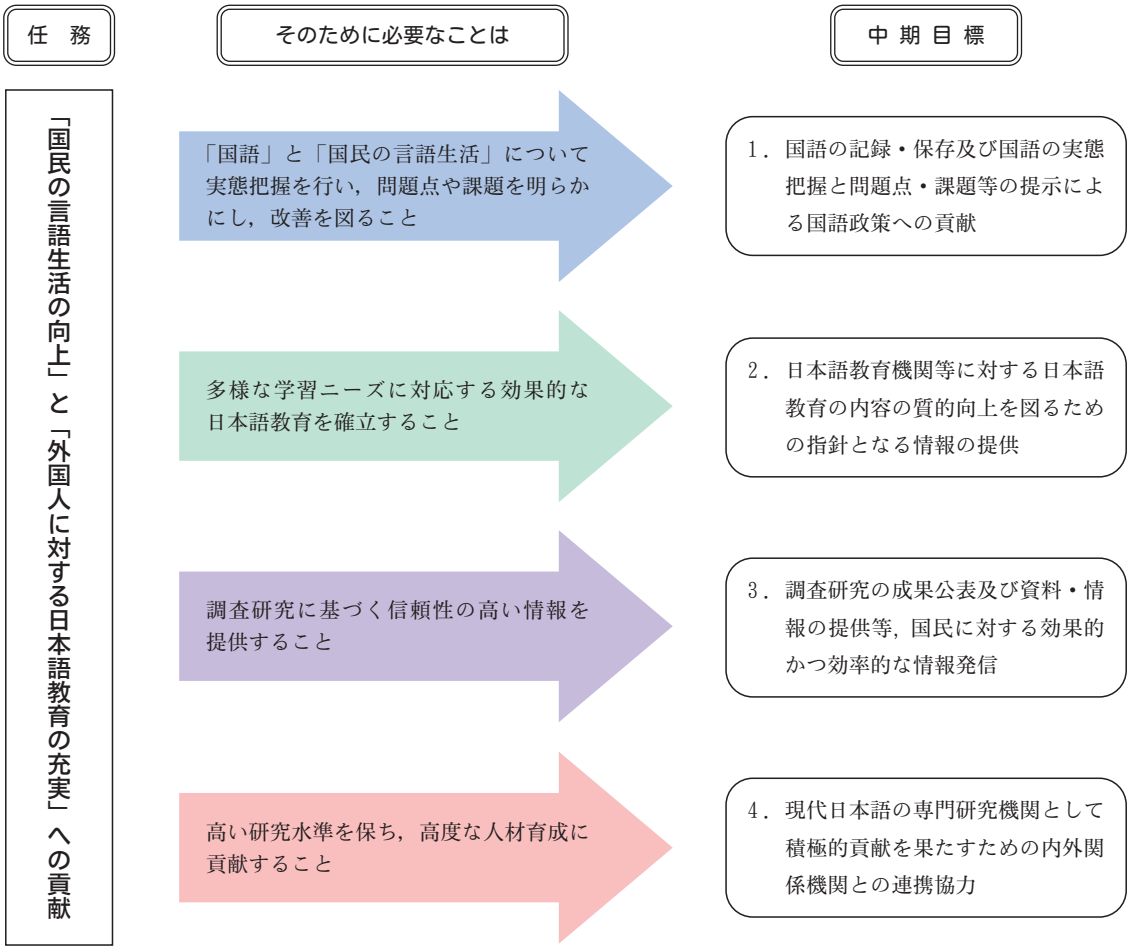
⑥日本語教育データベースをもとに，日本語教育機関が活用しやすい形態で日本語教育の内容の指針となる情報を提供する。

⑦インターネットの活用，研修・セミナー等の開催により，効果的・効率的な情報の提供・普及を図る。

【３.情報の収集・蓄積・発信】

中期目標の「3.調査研究の成果公表及び資料・情報の提供等，国民に対する効果的かつ効率的な情報発信」を達成するために，次の⑧⑨を実施します。

国立国語研究所の任務と中期目標（平成18年度～22年度）



⑧調査研究成果の公表の多様化・活発化，並びに普及広報の媒体の複合化，テーマの重点化を図る。

⑨情報・資料の収集・整理等の継続的実施，並びに日本語・日本語教育情報の提供システムの一元化・強化を図る。

【4．連携協力と人材育成】

中期目標の「4.現代日本語の専門研究機関として積極的貢献を果たすための内外関係機関との連携協力」を達成するために，次の⑩⑪⑫を実施します。

⑩研究者の受入れ及び派遣等を行う。

⑪国際シンポジウムを開催する。

⑫連携大学院事業に参画する。

5．組織の改編と体制の整備

第1期中期計画の期間は，「研究開発部門」「日本語教育部門」「情報資料部門」の3部門，そして各部門に2領域を置く「3部門6領域」という体制のもとで研究事業を進めてきました。しかし，第2期中期計画を開始するに当たり，上に紹介したような研究事業を確実かつ円滑に推進するために，かなり大がかりな組織の改編と体制の整備を行いました。

具体的には，部門レベルの組織は従来と同じく三つのままですが，「日本語教育部門」だけは名称を「日本語教育基盤情報センター」と改めました。これは，日本語教育における研究所の任務が，この分野の基盤情報の充実にこそあるという認識に基づくものです。また，従来の「領域」という単位を廃止して，個々の課題への対応がより一層明瞭な「グループ」という単位を作り，それを基盤にして研究事業を推進していく体制を整えました。

もちろん，このような所内の組織は，それぞれが分担する仕事に狭く閉じこもることなく，互いに連携する必要があります。研究所は，そのような連携の輪を，所内ばかりでなく国の内外の機関や研究者にも広げながら，「開かれた研究所」としてこれからも着実に研究事業を進めていきます。

（相澤　正夫）

刊行物紹介

『分かりやすく伝える 外来語言い換え手引き』

国立国語研究所「外来語」委員会編／2006年６月／ぎょうせい／税込1,600円

■伝わらない外来語

多くの人々に情報を伝える場面では，分かりにくい言葉を多用するわけにはいかないはずです。しかし，国立国語研究所の調査によれば，公共性の高い印刷物などには，一般の人々にとってなじみの薄い「外来語」が多く使われています。読み手の分かりやすさに配慮せず，書き手の使いやすさを優先しているように見えます。

自分の身の回りでは当たり前のように思われる言葉が，世代や関心を異にする人にとっては分かりにくい場合があることには，案外気付きにくいものです。また，分かりにくい言葉だと気付いても，それにどのように対応すれば分かりやすくなるのか，書き手が当惑する場合も多いようです。

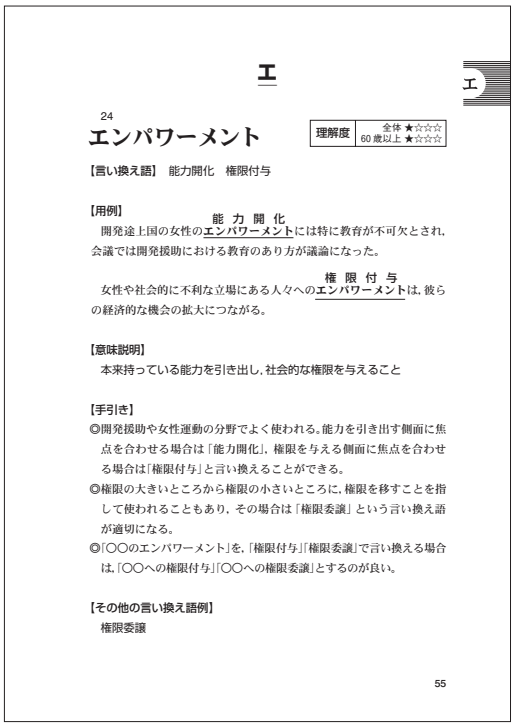
■外来語を分かりやすくする工夫の提案

このような現状を打開しようと，国立国語研究所「外来語」委員会は，一般の人々にとって分かりにくい外来語を一つ一つ取り上げて，言葉遣いをどのように工夫すれば分かりやすくなるのか，具体的な提案を重ねてきました（「外来語」言い換え提案――分かりにくい外来語を分かりやすくするための言葉遣いの工夫――）。平成14年８月に委員会が発足して以来，平成18年３月まで，４回に分けて提案を行ってきた外来語は，全部で176語になりました。

この176語について，この３月に「総集編」を公開しましたが，その内容をもとに，『分かりやすく伝える 外来語言い換え手引き』という本を作り，このほど刊行しました。分かりやすい表現を必要とする幅広い分野の方々に活用していただければと思います。

■言い換えや説明方法のほか様々な情報を提供

国民を対象とした世論調査の結果に基づき，個々の外来語の理解度の段階を★印で示し，最適な【言い換え語】とその【用例】，説明を付ける場合に用いるとよい【意味説明】を示し，文脈や場面によって言い換え語を使い分ける場合の【手引き】なども詳しく記しました。



エ

24

エンパワーメント

理解度　全体 ★☆☆☆　60歳以上 ★☆☆☆

【言い換え語】 能力開化　権限付与

【用例】

開発途上国の女性の能力開化エンパワーメントには特に教育が不可欠とされ，会議では開発援助における教育のあり方が議論になった。

女性や社会的に不利な立場にある人々への権限付与エンパワーメントは，彼らの経済的な機会の拡大につながる。

【意味説明】

本来持っている能力を引き出し，社会的な権限を与えること

【手引き】

◎開発援助や女性運動の分野でよく使われる。能力を引き出す側面に焦点を合わせる場合は「能力開化」，権限を与える側面に焦点を合わせる場合は「権限付与」と言い換えることができる。

◎権限の大きいところから権限の小さいところに，権限を移すことを指して使われることもあり，その場合は「権限委譲」という言い換え語が適切になる。

◎「○○のエンパワーメント」を，「権限付与」「権限委譲」で言い換える場合は，「○○への権限付与」「○○への権限委譲」とするのが良い。

【その他の言い換え語例】

権限委譲

55

■委員会の苦心や調査結果の解説も掲載

この提案を行うために，委員会では様々な調査結果に基づいて議論を重ねてきました。委員会の苦心や，調査結果の解説なども，読み物としてまとめて掲載しました。

- 「外来語」言い換え提案の現場
  - 分かりにくい外来語はどの分野に多いか
  - 言い換え語を絞り込む苦心
  - 「外来語」言い換え提案に寄せられる意見
- 外来語の実態―調査と解説―
  - 外来語の比率とその増加
  - 外来語の定着度の多様性
  - 外来語と和語・漢語との使い分け
  - 外来語と言い換え語の分かりやすさ　ほか

■『新「ことば」シリーズ19』とも関連

この本と関連する内容の別の刊行物に，国立国語研究所編『新「ことば」シリーズ19 外来語と現代社会』（平成18年３月，国立印刷局，税込483円）があります。現代社会に生きる私たちは，外来語とどう付き合っていけばよいのかという立場で，より広い話題をまとめた小冊子です。あわせてお読みくだされば幸いです。

（田中 牧郎）

刊行物紹介

『日本語教育の新たな文脈 ―学習環境，接触場面，コミュニケーションの多様性―』

2006年３月／アルク／税込2,940円

現在，日本語を学んでいる人は，国内外を合わせると250万人に上ります。最近では，日本のアニメや漫画を読むために日本語を学ぶ人や，日本語学習にインターネットを利用する人が増えています。日本語学習者を取り巻く環境は，私たちが考える以上に多様化しているのです。

そこで，国立国語研究所では，日本語教育の課題と実態を新たな目で見直し，将来の新たなあり方を提案する目的で，論文集『日本語教育の新たな文脈―学習環境，接触場面，コミュニケーションの多様性―』を刊行しました。ここでは，その一部を紹介します。

■海外の日本語教育における様々な事例から

外国語学習というと，私たちは留学や旅行のためといったように，実用的な目的と結びつけて考えることが多いでしょう。しかし，海外の日本語教育の多くは，学習時間の少ない公開市民講座や初等・中等教育で行われており，実用と直結しない環境にあります。

１章の「海外に学ぶ日本語教育―日本語学習の多様性―」では，海外の日本語教育の様々な事例を紹介し，日本語学習の多様性について考察しています。例えば，東欧のある市民講座でのエピソードは

―― この市民講座は首都から遠く離れた都市で十数年間続けられています。受講生の平均年齢は80歳を越えていますが，みな大変熱心に学んでいるそうです。その中の一人は，日本に行ったことがないにもかかわらず，日本語の教科書を自分の棺に入れるように願う遺言書を残したということです。――

この市民講座のエピソードは，日本語の学習がどのような意味があるのかは人それぞれであることを私たちに再認識させてくれます。

■国内の学習環境に関する調査から

学習者の多様性の実態を知るには，「留学生」「就学生」というように，学習者を集団として捉えるのではなく，一人一人の学習環境を丹念に見ていくことが大切です。２章の「日本語学習者と学習環境の相互作用をめぐって」では，個々の学習者を取り巻く学習環境についての調査を紹介しています。

次の二つの図は，国内の学習者に対する聞き取り調査で明らかになった学習環境を図示したものです。

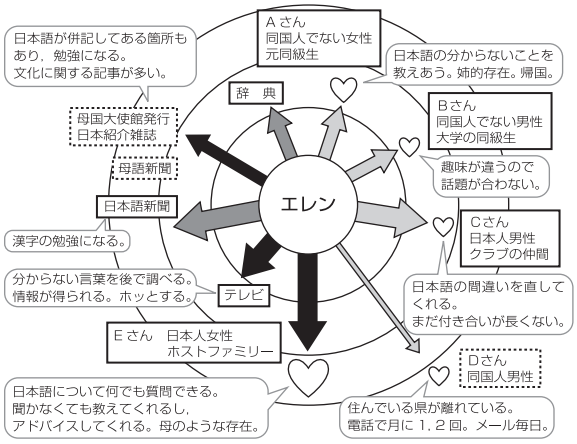


図１

図１では，学習者自身を表す中心の円から太い矢印が何本も出ています。これは，この学習者の学習環境には，日本語学習に役立つ人（同国人の友達，日本人のホストファミリー等）や物（テレビ，新聞，辞典等）が豊富にあり，直接会ったり，メールや電話等を介して頻繁に交流があることを示しています。

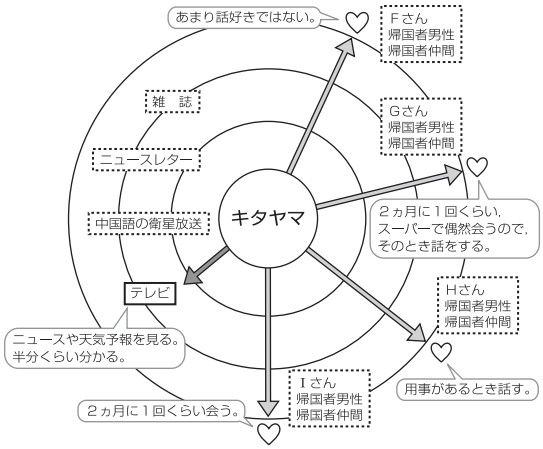


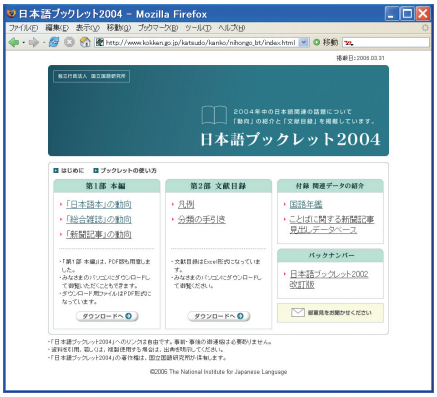
図２

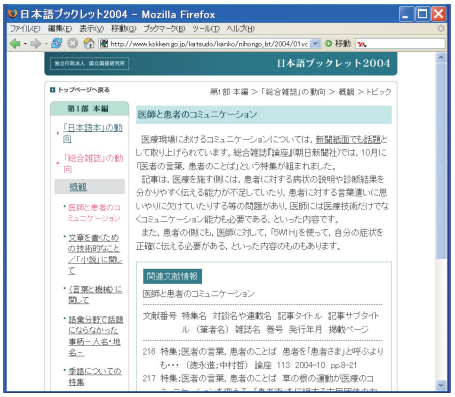
図１と比べると，図２では細長い矢印が数本しか伸びていません。このことは，この学習者の学習環境には日本語学習に役立つ人や物が少なく，日常的な交流もほとんどないことを表します。

学習環境は，その社会における学習者の位置づけによって異なると言われています。この調査の結果は，日本の社会が日本語学習者にとって学びやすい環境であるかどうかという観点から，日本語教育を問い直すための貴重な資料です。　（福永 由佳）

『日本語ブックレット2004』 http://www.kokken.go.jp/katsudo/kanko/nihongo-bt/

Web ブラウザで閲覧できます。また，PDF 版をダウンロードして閲覧することもできます。
なお，文献目録（Excel 形式で作成）は，ダウンロードして御利用ください。





『日本語ブックレット』は，日本語に関する動向や資料を分かりやすい形で広く提供することを目指して編集したものです。平成15年度より始めた試作・検討を経て，17年度より毎年，電子版として定期刊行することとなりました。

今回刊行した『日本語ブックレット2004』は，平成16年（2004年）の日本語をめぐる動きをまとめたものです。日本語本・総合雑誌・新聞記事といった資料をもとに，第１部〈本編〉では全体の動向を，第２部〈文献目録〉では日本語に関する図書・記事のデータを掲載しています。

なお，第１部では，これら３種類の資料それぞれについて，2004年１年間の日本語をめぐる状況・傾向を大まかにとらえ（**概観**），その中から**トピック**を取り上げて，さらに詳しく述べています。また，それぞれのトピックに関係する図書や記事の情報を，第２部〈文献目録〉から抽出して，**関連文献情報**として併せて掲載しています。

それでは，実際に2004年の動向としてどのような点が注目されたかを，第１部で見ていきましょう。

まず**日本語本**では，北原保雄編『問題な日本語どこがおかしい？何がおかしい？』（大修館書店）など，翌年にかけ社会一般で大きな反響を呼ぶようなベストセラーが登場しました。また，目立ったテーマとしては「地名に関する本」「言語学の入門書」などを，精力的な活動を見せた著者としては齋藤孝氏，阿辻哲次氏らを挙げることができます。

総合雑誌では，医療現場での医師－患者間の対話や，文章を書く技術など，〈コミュニケーション〉の分野に関する記事が豊富に見られました。これとも関連する，ケータイやパソコンなどの情報メディアを扱った〈言葉と機械〉や，さらに〈語彙〉〈国語教育〉〈英語学習〉といった分野の話題も多く取り上げられました。

新聞では，「平成の大合併」に伴う新しい自治体名や，人名用漢字の追加，国立国語研究所による「外来語」言い換え提案，子どもの「学力低下」をめぐる動き，さらに総合雑誌とも共通する，コミュニケーションのあり方や早期英語教育の是非といった話題が目立っています。

本年度中には，首都圏の若い女性を中心とした「方言ブーム」や，秋のテレビ番組改編時における「日本語クイズ番組ブーム」など，2005年の日本語をめぐる社会の動きを取り上げた『日本語ブックレット2005』を刊行予定です。

この『日本語ブックレット』が日本語に関する情報源の一つとして皆様の言語生活に役立つものとなるよう，今後改良を重ねていく所存です。（新野　直哉）

○国立国語研究所編『国語年鑑』（大日本図書）では，日本語に関する研究の動向・文献目録等を紹介しています。
http://www.kokken.go.jp/katsudo/kanko/nenkan.html
○国立国語研究所の「ことばに関する新聞記事データベース」では，1949年～2004年の記事見出し情報を検索できます。
http://www.kokken.go.jp/katsudo/kenkyu_jyo/sinbun/

国際シンポジウム報告

第13回国際シンポジウム「言語コーパスの構築と活用」

（３月６日・７日　時事通信ホール）

国立国語研究所では今年度から始まった第２期中期計画の中心的課題として，現代語書き言葉の大規模なコーパスを構築します。今回のシンポジウムは，この事業を念頭において企画したものであり，諸外国で言語コーパスの構築ないし応用にかかわってきた方々をお招きして，その知見を提供していただくとともに，国語研究所で構築を予定している書き言葉コーパスの設計に対するコメントをいただくことが目的でした。

３月１日に全国紙の夕刊１面で，この書き言葉コーパス構築計画が大きく報道されたこともあり，定員の200名を超える事前参加申し込みがありました。

初日には，学習者用英語辞典で著名な英国ピアソン・エデュケーション社（ロングマン）のスティー

ことばQ&A

質問　最近あちこちで「立ち上げ」「立ち上げる」を見聞きします。一般に広めて使うのはどうかと思うのですが。

回答　最近取りざたされている，「会社を立ち上げる」「新企画の立ち上げ」など組織や計画についていうこの表現は，コンピューター用語から始まったと言われています。パソコンなどを「起動する」（使用開始のため何らかの操作をして稼動可能にする）ことを「立ち上げ」とし，その操作を「立ち上げる」といいます。このことが辞書に載ったのは，昭和61（1986）年だそうで（NHK「気になる言葉」による。），1995年のパソコン入門書に用例があり（小学館『日本国語大辞典』オフィシャルサイト日国友の会ウェブサイトによる。），この二十年間のパソコン自体の飛躍的な普及が，この言葉の流行の背景と思われます。

さて，簡便に現代語の語史を調べるため，書名における用語の初出調べ（国立国会図書館蔵書検索を利用）をすることがあります。「立ち上げ」について早い例は，1977年刊行の書名（巻名）で「垂直磁場コイル電流の立ち上げ方式」でした。電気工学の電流に関する「立ち上げ」という使用例はこれ以外にもあります。さらに，1985年の経営学関連の書名（副題）に「戦略から立ち上げまでの全手順」という応用の用例がありました。

上のような専門用語の応用への違和感とは別に，この表現の使用を控えたい理由として，自動詞と他動詞を混ぜており，間違った用法である，とするものがあります。これについては，もともと日本語で自動詞と他動詞の区別ははっきりせず，どちらにもなる語がある，「飛び出す・上り詰める」など同様の複合動詞がある，「立ち聞く・立ち見る」など「立ち～」の他動詞もある，との指摘がされています（塩原経央（つねなか）『「国語」の時代―その再生への道筋―』ぎょうせい2005）。

また「立ち上がらせる」となるべきともいわれますが，「立ち上げさせる」と同様「～させる（使役）」意が強く，しかも名詞「立ち上がらせ」は成りにくいでしょう。

結局違和感を抱く人のいる以上，使用に配慮は必要です。使い手の事情（位相）もさることながら，場面や文脈によって適語を選んで言い分ける，“しなやかさ”に期待したいものです。

（山田　貞雄）

※この欄は，当研究所に実際に寄せられた「ことば」に関する質問に基づいています。

ブン・バロン氏，韓国延世大学で1980年代から韓国語コーパスの開発に携わってきたソ・サンギュ氏，中国北京大学で計算言語学の研究を進めているツァン・ウェイドン氏による講演があり，明海大学の投野由紀夫氏からコメントをいただきました。また，講演の合間には，国語研究所が公開している『日本語話し言葉コーパス』と『太陽コーパス』のデモンストレーションも実施しました。

2日目には，イタリアボローニャ大学でウェブ上のテキストから巨大なコーパスを構築する手法を研究しているマルコ・バローニ氏，台湾中央研究院でコーパス構築と計算言語学の研究に携わっているフアン・チューレン氏，韓国国立国語院で21世紀セジョン計画を担当しているキム・ハンセム氏による講演の後，国語研究所の前川と山崎誠が，国立国語研究所における言語コーパス開発の現状および現代語書き言葉均衡コーパスの設計について発表しました。

大阪外国語大学の田野村忠温氏，奈良先端科学技術大学院大学の松本裕治氏からコメントをいただき，さらに全体でのパネルディスカッションを行いました。

全体として，会場からの質問もふくめ，大変活発な質疑が行われたシンポジウムでした。講演の要旨はホームページで御覧になれます。

（http://www.kokken.go.jp/kotonoha/）

（前川　喜久雄）

＊コーパスとは言語研究用に作られたデータベースのことで，体系的に収集され，研究用の情報を付加された言語資料のことを言います。

新　　刊

1．第10回国立国語研究所国際シンポジウム第３部会報告書
『環太平洋地域における日本語の地位』
2006年３月／凡人社／B5 判横組み153ページ／税込2,310円

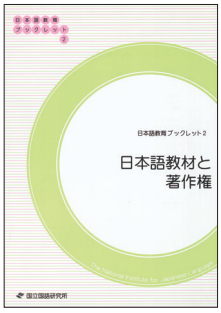
2．**『日本語教育の新たな文脈**
―学習環境，接触場面，コミュニケーションの多様性―』
2006年３月／アルク／A5判横組み318ページ／税込2,940円
（５ページに紹介記事があります）

3．**『日本語教育ブックレット２　日本語教材と著作権』（改訂版）**

今回の改訂版には，本書第一版が刊行された2002年３月以降に実施された著作権法改正（著作権侵害にあたらないとする条件の拡大）等についての情報を追加しました。文字も映像も容易にかつ鮮明にコピーできる時代に，著作権を侵害したりされたりすることのないよう，著作権に関する基礎知識を具体例とともに紹介しています。

「日本語教育ブックレット」は，すでに１～８までが刊行されています。各巻の内容及び購入方法については，国立国語研究所のホームページを御覧ください。

2006年３月／国立国語研究所／B5 判横組み59ページ／実費500円



4．**『方言文法全国地図　第６集』**（国立国語研究所報告97-6）
2006年３月／国立印刷局／地図80枚，解説書（A5 判横組み772ページ）／税込56,700円

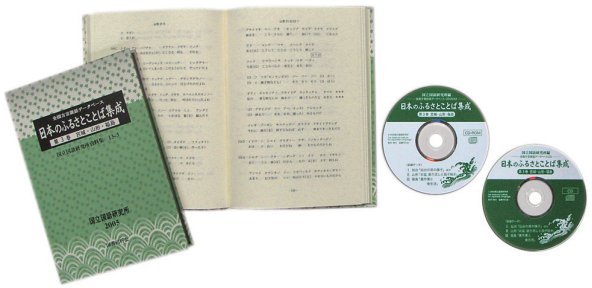
5．**『日本語科学』19**
2006年４月／国書刊行会／B5 判横組み172ページ／税込3,150円

6．**『全国方言談話データベース　日本のふるさとことば集成』**

このシリーズでは，1977～1985年に文化庁が実施した全国規模の方言談話の収録事業「各地方言収集緊急調査」報告の中から，各地の方言の特徴がよく現れている年配の方々の自然な会話を，都道府県ごとに紹介しています。

CD には，方言の会話の音声を収録しました。冊子，CD-ROM には，方言の会話の文字化，その共通語訳，収録地点の情報と方言の解説などを収めました。

第１巻　北海道・青森　（国立国語研究所資料集13-1）
第２巻　岩手・秋田　（国立国語研究所資料集13-2）
第３巻　宮城・山形・福島（国立国語研究所資料集13-3）



2006年５月（第３巻）　第１巻・第２巻は近日刊行
３冊とも　国書刊行会／冊子（A5 判横組み），CD，CD-ROM／税込7,140円

7．**『分かりやすく伝える 外来語言い換え手引き』**
国立国語研究所「外来語」委員会編
2006年６月／ぎょうせい／四六判横組み276ページ／税込1,600円
（４ページに紹介記事があります）

©2006　国立国語研究所